

日高市公共施設再編・最適化の検討に関するワークショップ 報告会を開催しました。

- 開催日時 平成 30 年 1 月 16 日（火） 14:00～14:40
- 会場 日高市役所 2階 庁議室
- 参加者 市民ワークショップメンバー 13 名
庁内プロジェクトメンバー 6 名



本ワークショップは、公共施設を取り巻く現状や課題について市民のみなさまと共通認識を持った上で、将来を見据えた公共施設の最適化を進めるための基本方針を検討することを目的に設置されました。平成 29 年 5 月から 12 月にかけて計 5 回開催し、26 名の市民のみなさまと検討を行いました。



報告会では、ワークショップで検討を行ってきた地域別の 4 グループ（高麗・高麗川①・高麗川②・高萩）より 1 名ずつ代表で検討結果の発表を行い、市長、副市長、教育委員長への提言を行いました。発表の後は、ワークショップでの検討結果をとりまとめた報告書を市長に提出しました。



これまでのワークショップの検討では、日高市のアイデンティティや 3 地域の特性を再確認するとともに、大切にしたい視点を整理し、これらを共有したうえで、各施設のあり方について議論を重ねました。施設利用のニーズや新たな活用、統廃合や配置案等を取りまとめ、地域への思いが詰まった報告書が完成しました。

公共施設の再編・最適化にあたっては、報告書に掲げる内容を踏まえ、地域毎により具体的に検討を進めていく予定です。

公共施設の再編・最適化の基本方針

～高麗地域の視点から～

◆施設数が減っても、子供たちの可能性・選択肢を奪わないこと

地区内で小中一貫校に統合する場合は、学区をオープンにして、子供たちに選択肢があるようにしてあげたい。小中一貫校や中学校の統合により、生徒一人一人のケアや、後回しにされてしまいがちな専門科目等の質が上がるのであれば、推進すべきである。子供たちの可能性を奪ってしまうような公共サービスであってはならない。

◆プールは市に一つ、子どもも大人も使えるよいものを

学校プールは夏しか利用ができず、市民プールは利用者が減少している。小中学校のプールを廃止し、市民プールを一年中使える屋内温水プールにリニューアルすることで、市内 12 箇所の学校プールの維持管理費を削減することが可能である。小中学生は一年を通してローテーションでプール授業を行い、また大人も利用可能な快適で便利なプールが市内に一つあればよいのではないか。

◆「見たら帰る」で終わらない観光に 今ある資源を活用して発展

高麗地域は観光資源が豊富でありながら、「体験」の場、「交流」の場が乏しい。宿泊施設も少ないため、既存の公共施設や空家、空施設を活用して、拠点を作っていきたい。そのための仕組みづくりも必要である。住民も観光客も、いっしょに地域をつくっていけるような観光地にしたいという思いがある。

～高麗川①地域の視点から～

◆移動手段を確保し、誰もがアクセスできる公共施設へ

市に一つしかないサービスに関しては、コミュニティバスの活用など、市民の移動手段の確保や高齢者など人の移動も含めて考慮した施策が重要である。施設へのアクセス手段は、施設の再編や最適化と切り離せない重要な視点である。

◆民間と連携し、より便利で使いやすい施設運営を

子育て支援施設は、民間と連携した運営にすることで、より便利なサービスを受けることができるのではないかと考える。施設によっては官民連携の意見が大きく分かれるため、施設ごと機能ごとにさらに検討を重ねる必要がある。突然の廃止や不祥事防止等を考慮して、【補助金】⇔【監査】の関係を築いて、行政の監視が入る形が良いのではないか。

◆幅広い世代のニーズに応える施設運営を

小中学校をどうするかという議論もあったが、昔から 50 年、60 年と住んでいる方と 5、10 年住んでいる新住民との間で考えの違いがあった。町に住んでいる年数によって考え方が違ってくるという点から、地区別・居住年数別等詳細に意見を集める必要があると考える。

～高麗川②地域の視点から～

◆公民館等の各地区にある施設を活用し、様々な機能を集約

自分の地区に必要な施設については、大きな施設の中に様々な機能が集約されているとよい。教育施設や子育て支援施設は小中学校に集約し、隣接して公民館・出張所があれば、手続き等も簡易的に済んでよい。各地区にそのような拠点があると便利だと考える。

◆だれでも施設、機能にアクセスできること

公共施設を巡回する交通手段があれば、施設同士が離れていても利用は可能である。民間と連携したコミュニティバスの運行などが考えられるのではないかな。

◆機能集約により、容易な情報アクセスを可能にし、人が集まる場に

保育所や児童室等の機能を集約するとともに、生涯学習センターや図書館についても併せて考え、イベント等の情報を伝えていくことで、さらに便利で人が集まる場となるのではないかな。また、児童向け施設だけでなく、高齢者向け施設とつなげていくことでコミュニティの場となる。既に市内ではお年寄りだけでなく、子供たちや障がい者が集う施設としての新たな取り組みが進められている。地域住民の良いコミュニティ空間であるが、今後は離れた地域のかたにも使ってもらえるように、情報発信を強化するべきである。

～高萩地域の視点から～

◆子どもやお年寄りでも利用できる、徒歩圏内に拠点があること

高萩地域は公共施設の数が少ない地域であり、これからも増やしていくのは難しいと考えている。公共施設の再編・最適化を進めていく中で、地域内にある公民館や公会堂に窓口機能が追加されたり、享受できるサービスが増えれば便利になる。子どもやお年寄りなど、車によるアクセスができない人でも徒歩圏内でサービスを受けられることが重要である。施設を増やさずに、既存のものを工夫して使っていきたい。

◆既存施設を柔軟に使えるような仕組みの検討

公民館や公会堂の多目的利用の可能性が広がればよいが、現状の公会堂ではいろいろな難点があり、畳があつて床がないと高齢者だと利用しづらいという点や、常に戸が閉められていて使い方がわからない、いつも人がいない等の問題がある。防災的な観点からも、身近な所に集まれる場所があり、みんながそこに行けば安心という拠点がほしい。使いやすい仕組みと、そこへ集まるという習慣を作らないといけない。

◆「そこに行けば安心」という場所づくりを続けること

なにかをやりたい人がいて、それを実現できる仕組みがあつたら、今度はそれを継続して定期的に人が集まる場所にしていかなければならない。小さなイベントでも継続すれば、その準備の集まりが定期的にあつたり、イベントの日にはコミュニティができる。ボランティアでは続かないのであれば、新しい建物を建てない分、人にお金をかけることができるのではないかな。大きい施設の活用はもちろんだが、地元にある小さな施設から人がつながる仕組みというのをしっかり作って、人があつたかい日高市になればいい。